



入り口左側から続く
中山道会館建物までの回廊
楽市のテント代わりとしても使用されます

※指定管理者制度

公の施設の管理に民間のノウハウを活用しながら、サービスの向上と経費の削減を図ることを目的とした制度。

が協働で、施設のコンセプト、管理運営、建築計画についてまとめた「中山道会館建設基本計画報告書」が、平成16年12月に出来上がりました。

翌年からは設計・工事が始

まり、協議会のメンバーは図面引きにも参加し、中山道会館の完成に向けて努力を続けました。その過程を経て、今年4月のオープンを迎えたのです。

中

山道会館の施設は、すべてが魅力あふれるものでお薦めです。展示室は、江戸時代の太田宿のにぎわいを再現しましたが、いい雰囲気仕上がりしています。特に面白いところは、旅籠「加納屋」にある「旅籠屋万覚帳」です。これは、来館の記念に自分の名前と写真を記録できるもので、昔でいう宿帳の記入に当たります。今は、一冊機器で登録できるようになっており、そういう意味では、

Interview

おもてなしの心を持って 中山道会館を運営していきます



特定非営利活動法人
「宿木」 理事長
藤井昭司さん
Shoji Fujii

古さと新しさが交じった良さではないかと思っています。中山道会館は、展示を見たり、朝市で買い物をしたりとさまざまな楽しみ方が可能ですが、市民の皆さんが、イベントを行ったり、また、所蔵品を展示したりと、自らが参加することも可能です。今は施設の完成度としてはまだまだだと思えますが、市民の皆さんの力をお借りしながら、徐々に良い施設にしていきたいと思っています。

わたしたちは、20年以上前から、中山道会館のような施設を建設したいと考えていました。その目標に向かって一緒に頑張っていった会員の一人である亀谷修司さんが、中山道会館オープンの1カ月ほど前に亡くなりました。



夜の中山道会館は、
趣のある表情を見せます

中山道会館の建設は、

地域住民にとって悲願だった

構想は20年以上前から

中山道会館の計画は、20年以上前にさかのぼります。中山道会館のある太田宿周辺は、昭和58年の「9・28災害」で水没し、寂れて活気を失っていました。そのような中、地元太田宿の人たちを中心に、太田宿に活気を取り戻そうとする活動がありました。その一つが、中山道のことから分かる大規模な資料館を太田宿に造ろうとする「中山道歴史

キーワード

観光

市全体としての地域活性化につながるよう、太田宿と市域全体の魅力、そして市外とをつなぐ機能の整備。

文化

歴史的な背景も踏まえた「人と文化と自然の縁」を、ビジュアル的に分かりやすく表現した展示機能など、全国に向けた情報発信機能の整備。

交流

テーマストリートの到達地点としての休憩、飲食機能や、人々をいざなう仕掛けとしてのイベント機能など、「にぎわいと交流」の創出。

した。

こうした中、市内の三つの団体が中心となって「中山道会館建設推進協議会」(以下協議会)が生まれ、「中山道会館を造って地域活性化の拠点にしていきたい」との提言書が、平成15年3月25日に市へ提出されました。市では、それを受けて中山道会館建設基本計画策定に向けて、具体的な意見や現状について検討することになりました。

「観光」・「文化」・「交流」がキーワード

その後、協議会と市による会議、ワークショップを重ねて、施設の整備方針や運営方法などについて意見を出し合ってきました。そこで、施設整備の基本方針として、中山道太田宿地域の活性化のみならず、市における「人と文

指定管理者制度を適用

施設の管理運営については、前述のようなことから、指定管理者制度(※)を適用することとしました。地域住民による地域の活性化を目的

とする特定非営利活動法人「宿木」(藤井昭司理事長)が平成17年9月に設立され、市では、「宿木」を指定管理者として選定し、管理運営を行っていただくことになりました。



ワークショップの様子